

りんご研究所ニュース

No.91
2020.12.25

コロナ禍の中:

【献上りんご】

12月8日、りんご研究所研修館で、天皇皇后陛下下、上皇皇后陛下並びに各宮家に献上するりんごの選果、箱詰めを行いました。献上りんごは、昭和3年から始まり、



今回で76回目となる伝統かつ名誉ある行事です。本年は当研究所で収穫されたりんごから厳選して「ふじ」と「王林」の詰め合わせを献上しました。



女性圃場員は、多数の報道機関の撮影に緊張しながらも、りんごを和紙で包み、箱詰め作業を行いました。10日に当研究所から発送し、11日に赤坂御所など7か所へ無事献上されました。

【青森県りんご果実及び立木品評会】

12月2日、(公財)青森県りんご協会主催の第74回青森県りんご品評会の果実審査を弘果特設会場で当研究所職員が行いました。県南地区でも11月30日に県南果樹部長らが審査しました。

本年は、夏場の猛暑により着色管理が大変難し



く、苦勞の多かった年でしたが、出品されたりんごはいずれも優秀付けがたく、本年も素晴らしいものばかりでした。

また、今回は「ふじ」生誕80周年記念「全国ふじコンテスト」も併催、長野県や山形県などの出品も含め審査しました。



写真提供：(公財)青森県りんご協会

審査の結果、団体の部は黒石市高館支会が初となる第1席・農林水産大臣賞を、個人の部は平川市広船支会の工藤峰之氏が3度目の第1席・農林水産省生産局長賞を受賞しました。おめでとうございます。

これに先立って、立木品評会の審査があり、10月20日に有袋審査、同29日に二次総合審査、同30日に最終審査を当研究所職員が行いました。



写真提供：(公財)青森県りんご協会

審査の結果、団体の部第1席・農林水産大臣賞は2連覇で弘前市五代支会が、個人の部第1席・県知事賞は同支会の竹谷亮氏が受賞しました。おめでとうございます。なお、今年はコロナ禍の影響により、例年開催している一般展示及び褒賞授与式が残念ながら中止となりました。早息を願うばかりです。

【りんご病害虫マスター養成講座】

6月16日から始まった病害虫マスター養成講座は、第6講まで終了、あと3講となりました。

本年度は若手農業者44名を対象に、主に病虫害部員が講師を務め、病虫害の生態と防除方法、農薬の基礎知識などを研修、座学の他にも、所内の無防除圃場の各病虫害の観察や紋羽病の防除に係る実習も行いました。

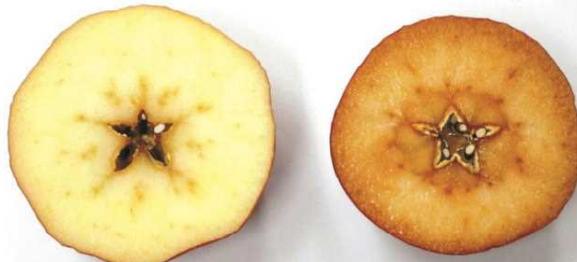


【「あおり27」(千雪)が世界的に有名な科学雑誌「ネイチャー」に掲載！】

品種開発部で参画している内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム」の中の「データ駆動型育種」の構築とその活用による新価値農作物品種の開発『プロジェクトの研究責任者が、事業のPRのために、世界的に有名な科学雑誌「ネイチャー」に宣伝用の記事を投稿し、掲載されました。

事業では、「あおり27」(千雪)等、多様な遺伝資源を材料に、難褐変性に関連する遺伝子等を明らかにし、選抜に利用できるDNAマーカーの開発に取り組んでいます。記事では、「あおり27」の難褐変性を示す写真とともに、事業によって難褐変性個体の出現予測の精度が10倍に向上したことが紹介されています。当研究所では、現在この予測値が実際の個体数と合っているかの検証

と、難褐変系統の選抜を行っているところです。



「あおり27」(左)と「ふじ」(右)の凍結解凍後の褐変比較

【研究風景】

○収穫後の大事な作業
りんご畑の冬支度

りんごの収穫が終わった後も、まだまだ作業は続きます。まずは、「凍害対策」。樹皮温度の上昇を抑えるために白塗剤(炭酸カルシウム剤)の塗布を行い

ました。寒空中、軍手に染みこませた白塗剤を一本一本丁寧に塗布していきました。



また、欠かせない作業が「野ネズミ対策」。トンネル生活が中心で繁殖力旺盛なハタネズミは、りんごの樹皮や根をかじります。大事な樹を守るため、樹幹には金網やプロテクターなどの被覆資材を巻き付け、ほ場にはネズミ捕り器を設置しました。雪が降る中での作業でしたが、積もる前に作業を終わることができ、ほつと一息つけました。

【お知らせ】

毎年2月に当研究所主催の試験成果・情報発表会は、新型コロナウイルスが全国的に感染拡大していることから、例年開催している津軽会場(平川市文化センター)、県南会場(南部町立町民ホール)での実施を中止することにしました。その代替として、当研究所HP上でWEB配信することになりました。なお、詳細は追って当研究所HP等でお知らせします。ご理解のほどよろしくお願い致します。

